

二中プライド

大丈夫 自分を信じよう

小平第二中学校便り11月号
令和4年11月1日発行
小平市立小平第二中学校
文責 校長 吉田 功

学校公式
ホームページ



耳目

9月30日(金)から体育館の照明が水銀灯からLEDになりました。水銀灯の時は、電気がつくまでに時間がかかったり、一旦消すと、しばらくつかなかったり等、苦勞する場面も多かったのですが、LEDになって、そういう苦勞がなくなりました。体育館全体も明るくなり、とても快適になりました。普段の授業や部活動も含めて卒業式や入学式等の儀式でも今までとは違って見えるかもしれません。

最後に、先月行われた合唱コンクールでは、会場の都合で、保護者の参観については各ご家庭1名のみと限定させていただきましたが、平日にもかかわらず多くの方にご来場いただき、本当にありがとうございました。

【副校長 西 伸一郎】



「読書週間」に寄せて

校長 吉田 功

だんだんと秋が深まり、一気に冬になったようです。先月21日に実施した合唱コンクールでは、制約がある中でしたが、全校生徒がルネこだいらに一堂に会し、合唱を行うことができました。来年度こそ、制限なしの合唱コンクールが開催できればと願っています。

さて、先月27日から読書週間が始まりました。この読書週間は、終戦まもない1947年(昭和22)年に、まだ戦争の爪痕が残っている中で「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動が全国に広がりました。そして読書週間は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になったそうです。

しかし、今、電子メディア等の発達によって、「本」離れが進んでいるという指摘があります。このことに対し、長年にわたり独自の国語教育を実践してきた土屋秀宇氏と7万人の子供たちの学力データを調査し、読書が脳に与える効果を実証した川島隆太氏は、その著書『致知ブックレット 読書習慣が学力を決める』の中で、脳科学の見地から示される、スマホの使い過ぎが子供たちの脳に与える弊害や子供たちの学力とスマホの使用時間の関連性を調査し分かったこと、読書習慣のある子供とそうでない子供に顕著に表れるという学力の差などについて明かしています。読書は、イメージする力や語彙力を育み、人生を発展させる創造性をも高めていくそうです。さらに土屋氏は、脳の発達だけでなく「思いやりや感謝、尊敬、利他心、抑制といったような徳性が養われる」と指摘しています。

幸い本校では、日頃から朝読書に取り組んでいるほか、国語科の授業の中で、「あかねこ」という副教材を用い、良文に触れる機会があります。また、今年度の全国学力・学習状況調査の結果によると、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」、「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」、「読書は好きですか」の設問に対し、本校3年生の回答結果は、全国や東京都の結果を上回っていることが分かりました。こうした恵まれた条件を生かしながら、さらに読書の機会が増えることを願っています。

避難所開設委員会の様子



大地震等の災害が発生し、家屋の倒壊等で自宅での生活が困難になった場合には、避難所での生活を余儀なくされます。そのとき、避難所を開設し運営するために必要な具体的な手順等をまとめたものが「避難所管理運営マニュアル」です。小平二中では、今年度から避難所開設準備委員会を立ち上げ、マニュアルづくりに取り組み始めました。

6月に第1回目の準備委員会を開催し、これまで3回実施しました。会には、小平市防災危機管理課の職員や小平二中の教職員のほか、二中学区の自治会、民生児童委員の方に参加していただき、避難所を開設してから運営、閉鎖していくまでの流れについて、様々な視点から検討し始めたところです。

今後は、マニュアルを完成させるとともに、より実効的なマニュアルにしていけるために、学校では避難所開設準備委員会と連携した避難訓練などを計画、実施していきます。避難所開設準備委員会は、小平二中学区の皆様に開かれています。ぜひ、保護者の方にも関心をおもちいただき、参加していただけたらと考えております。参加を希望する方は、副校長までご連絡ください。

ワクチン接種に係る学校の指導について

学校の教育活動においては、生徒に、新型コロナワクチンの接種を受ける又は受けないことによって、差別や偏見、いじめにつながらないように指導しています。

新型コロナワクチンの接種は強制ではありません。接種はあくまでも本人及び保護者の意思で受けていただくものです。身体的な理由や様々な理由によってワクチンを接種することができない人や接種を望まない人がいること、また、その判断は尊重されるべきであることについて、御理解いただきますようお願いいたします。

お困りのことがございましたら、学級担任やスクールカウンセラー、小平市教育相談室(042-343-9411)に御相談ください。

生徒会活動の様子

生徒会長 仁藤 美虹

今年度後期の生徒会の抱負は、「先駆者」になりました。「全校生徒が楽しく、充実した学校生活を送れるよう、常に道を切り開き、導いてゆく」という意味を込めました。そして、「二重革命」をモットーに、役員全員全力で活動していきます。応援、よろしくお願いします。

生徒会担当 吉高 詠美子

後期生徒会では定例会を金曜日に設定し、それぞれスケジュールを確認しながら自分の担当する行事の企画を進めています。今後の予定は、「子どもを笑顔にするプロジェクト」、「落ち葉掃き」、「部活動紹介ビデオ制作」です。予め決まっている取り組み以外にも、子どもたちの発想力豊かなアイデアで、新しい行事が生まれることもあります。1年間よろしくお願いします。

G組 宿泊学習に向けて

G組主任 高寺 徹

G組は、11月1日（火）、2日（水）の1泊2日で宿泊学習を実施します。今年度は山梨県富士五湖方面に行き、リニア見学センター、西湖こうもり穴、クニマス展示館、なるさわ富士山博物館、富士湧水の里水族館、忍野八海、ふじさんミュージアムを2日間で見学する予定です。富士山の火山活動や溶岩でできた地形、富士登山や人々との関わり、淡水魚の種類と性質、リニアモーターカーの原理（電磁石）など、様々な学習をしてきました。「百聞は一見にしかず。」事前に学習したことをその目で確かめてきたいと思います。

合唱コンクールの様子

文化行事担当 小池 基文

毎年のことながら、合唱コンクールが終わると、その後の音楽の授業の様子が格段に良くなります。「合唱コンクール」という行事を通して、生徒一人一人の生活の中に音楽的な見方考え方、意識などが深く強く表れるのだと思います。各クラス、仲間の絆を深め、信頼関係を築きながら共に学んだ体験は、反省を伴って経験へと昇華され、確実な生きる力への定着の深さを感じる瞬間です。1年前、次の年の課題曲を初めて聴いたり歌ったりした時と同じ笑顔が今年も溢れ、これからの音楽活動を通じた彼らの成長に早くも期待が高まります。

まだまだ感染症による制限が多い中、最大限のご理解ご協力により生徒を導いてくださった保護者や地域の方々をはじめとする関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

引き続き、生徒一人一人が音楽を通して、より明るく豊かな生活や成長につながるよう精励していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



ホームページより 10月の中学生の様子

第2回進路説明会

10月4日（火）の5、6校時に3年生の第2回進路説明会を体育館で実施しました。

会では、校長からの挨拶の後、担当の教員から都立高校や私立高校の入試制度などについて説明を行いました。

生徒の皆さんには、自分に合った進路先を探し決定できるよう、主体性を発揮してほしいと思います。



※進路説明会資料はホームページからご覧になることができます。

部活動体験

10月5日（水）に小・中連携 小6部活動体験を六小、十三小の児童を招き実施しました。当初の予定では1学期に行う予定でしたが、酷暑のため、10月に延期しました。

約1時間弱でしたが、中学校のお兄さん、お姉さんたちと一緒に活動し、有意義な時間を過ごすことができました。



避難訓練

10月18日（火）に地震を想定した避難訓練を実施しました。今回は、事前予告なしで昼休みに実施しました。

訓練用の緊急地震速報が鳴った瞬間は生徒たちは状況をつかめていないようでしたが、その後、体を守る態勢をとることができていました。

これからも、あらゆる災害を想定した避難訓練を実施していきます。

